

東京外国語大学 博士前期課程 キャリアプログラム（多文化コーディネーター養成プログラム）
多文化コーディネーション研究2（授業題目：多文化コーディネーション実践演習）

多文化化が進む 小中学校で求められる 文化の違いを超える教育活動とは

公開シンポジウム

参加費無料・予約不要

※参加を希望する方の人数が会場の定員を超えた場合には、
参加をお断りすることがありますので、ご了承ください。

※このシンポジウムは、東京外国語大学の博士前期課程の集中講義の一部を公開して実施するものです。



写真提供：小貫大輔さん

「日本語を習う」「通訳してもらおう」だけでは、
なかなか乗り越えられない壁があった (*_*)

2020年 2月6日（木） 12:40～15:50

場 所 東京外国語大学 府中キャンパス 研究講義棟 110教室

ゲスト 小貫大輔さん（東海大学教養学部国際学科 教授）

亀山陽子さん・神谷洋子さん（武蔵野市教育委員会 帰国・外国人教育相談室 相談員）

コーディネーター 木下理仁（東京外国語大学 VOLAS ボランティア・コーディネーター）

東京外国語大学

お問い合わせ：東京外国語大学 萩尾 生 shohagio@tufs.ac.jp / 古橋 綾

【開催趣旨】

日本に暮らす外国人は現在、約 300 万人。30 年前の 3 倍に増え、地域社会の多文化化がどんどん進んでいます。

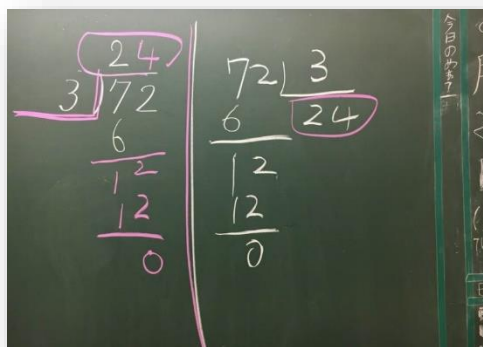
東京外国語大学には、ここ数年、日本の学校に通う「外国につながる子どもたち」のために、「外国語のできる大学生を（言語サポート）ボランティアとして紹介してほしい」という学校からの依頼が目に見えて増えてきています。

しかし、「ことば」さえ通じれば授業についていけるようになるかという点、どうもそうではなさそうです。日本人にとっては当たり前で、ほとんど無意識にやっているようなことが、他の国で育った人にはわからないことが多く、その「違い」を知らないために、日本の学校の先生は、子どもがなぜわからないのかわからない、ということがしばしばあるようです。

公立の小中学校で外国につながる子どもたちを支援するきめ細かい仕組みを持つ武蔵野市で相談員を務める亀山陽子さん、神谷洋子さん、外国人の保護者に日本の学校の授業を体験してもらうというユニークな取り組みを始めた東海大学の小貫先生をゲストとしてお招きし、今後、さらに多言語・多文化化が進む教育現場で“困りごと”が多くなると予想される中で、私たちに何ができるのか、参加者の皆さんと情報交換、意見交換をしながら考えます。

たとえば、「割り算」のやり方も国によって違う。
リズムにのせて覚える「掛け算の九九」も、日本独特。
外国人の親は、日本の学校の教え方を知らないで、
子どもの宿題をみることができない。
日本の学校の先生は、外国人の子どもが、
どうしてわからないのかわからない、ことがある。
外国人の親に対しても説明が難しい。

では、どうすればいいのか？
みんなで知恵を出し合って解決策を探りましょう。



【会場へのアクセス】

◆ JR中央線

「武蔵境」駅のりかえ
西武多摩川線「多磨」 駅下車
徒歩 5 分
(JR新宿駅から約 40 分)

◆ 京王電鉄

「飛田給」駅北口より多磨駅行き京王バスにて約 10 分
「東京外国語大学前」下車

